

令和5年4月21日(金)10:00～12:00

場所 裾野高校 会議室

静岡県立裾野高校 第1回学校運営協議会 議事録

1 校長 挨拶

田代直彦校長 挨拶・自己紹介

2 任命状交付・自己紹介

山本 睦委員 (常葉大学保育学部教授)

高橋智浩委員 (裾野市社会福祉協議会)

小田圭介委員 (総務省地域力創造アドバイザー)

志田忠弘委員 (NPO 法人理事)

室伏真澄委員 (前 PTA 会長)

稲垣智子委員 (元 PTA 会長)

林加代子委員 (PTA 会長)

\*志田委員、室伏委員、林委員は所用のため欠席。

櫻井副校長以下、簡潔な自己紹介 (福室教頭、相馬事務長)

3 静岡県立高校における学校運営協議会の設置等に関する規則・要綱などについて

4 会長・副会長の選出

委員の話し合いにより、高橋委員を会長に選出。小田委員を副会長に選出。

5 議事 (司会 高橋会長)

(1) 令和5年度学校経営計画について

田代校長：

①スクールミッションについて

裾野市との連携協定に基づき、産業界などとの連携しながら、課題解決の能力を高める。これらの活動を通じて自らの使命を実感し何事にも挑戦し柔軟に行動できる力を養う。持続可能な地域・社会に貢献できる人材育成を目指す。

②グラデュエーションポリシーについて

5つの系列ごとに培いたい能力をそれぞれコースごとに設定しております。

③アドミッションポリシーについて

基本的な生活習慣が身につけており、本校において学ぶ意欲が十分にある者

④スクールポリシー具現化の柱について

資料のウとエを重点的に取り組む。挑戦する力、変化に対応する力、自己肯定力の向上。教職員については同僚性の向上。

達成方法の数値を変更している。頭髮服装などに関する指導については、昨年度までのチケット制度を廃止した。成果と目標、数値の変更について避難訓練では、訓練が大切と答える生徒の数値目標が昨年度 75%だったが、これを 80%に変更した。教職員は生徒の話を親身になって聞いてくれる、70%から 90%に変更した。

「総合的な探究の時間」と「産業社会と人間」の時間でより良いキャリア教育が実践されていくようにする。生徒に誇りと自信を持たせて自己肯定感を高めたいと考えている。

PTA 活動の趣旨を十分に理解している、と答えていただける保護者を 60%から 70%に変更した。その他についての変更はない。

これらの活動を通じて、令和 6 年度高校入試において、志願倍率 1 倍以上を確保する。

高橋会長 学校経営計画などに関して、質問や意見のある委員はどうぞ。

小田委員 令和 5 年度入試の本校の志願倍率が結果的には令和 4 年度入試よりも下回った現状がある。それを踏まえると、この学校計画ががらりと変わってくるものと考えていたが、それほど大きな変更は感じられない。OB 会としては、志願者が 100 人を切る状況になりはしないかと大変な危機感をもっている。志願者を増やすためのより真剣な議論が求められる。北駿 3 校がある程度の結果を出している中で、裾野高校の志願倍率の現状は今年度 1 年間かけて真剣に取り組む必要がある。中学生や保護者に裾野高校にどう見られているか、が肝要だと思われる。そこで裾野高校の HP のリニューアルについて昨年度、話をさせてもらったが、余り改善されていないように感じられる。校内でどのような取り組みがあったのかお聞きしたい。

福室教頭 HP のあり方については、ビジネス系列の授業において、本校の生徒にも授業の中で取り扱うなどして、生徒も巻き込んで刷新しようと取り組んではいた。しかし、県の HP のフォームに様々なデータ制限もあり、更新・改善できる点は取り組んだが、大きくリニューアルはできなかった。

小田委員 沼津東高校などは、独自の HP にしているので、OB 会に支援をして欲しいと学校側に言っていただければ OB 会の方でやることは可能だと思う。ぜひ、前向きに検討していただきたい。御殿場高校の HP では、卒業式の様子を随時更新している。裾野高校の HP は古いものもまだ、残っている状態なので、改善の余地は大いにあると思うし、早急にリニューアルに向けて校内で動いてもらいたい。

田代校長 校内で前向きに検討していきたい。

高橋会長 HP は新鮮さが大事だと思うので、中学生が見て興味が湧くような HP に刷新

していただきたい。

相馬事務長 本校の学校案内は、他校と比べても紙面も見やすく非常に良い仕上がりだと考えているが、学校案内よりも HP の方によりお金をかけたほうがやはり良いのだろうか？

小田委員 どちらも大切だと思う。ただ、HP は保護者や中学生は進路を決める際に必ず見るものなので、リニューアルはしなければならないと思う。部活動の様子も更新が今年の 7 月のテニス部が最後になっている。これでは中学生に良いアピールはできないのではないのだろうか？中学生の生徒目線で改善してもらいたい。

高橋会長 部活動は高校を決める際に重要な要素だと思う。なんとなく部活の雰囲気良かった、という理由で決めることもあろうかと思う。情報発信ツールとして HP は大事だと思うので、学校側には善処を求めたい。

小田委員 平成 29 年に裾野市内中学生に高校で学びたい内容は何か、というアンケートをした。その結果、保育系列が立ち上がった経緯がある。志願倍率も 1 倍を超えた。翌年、また、私学への助成が始まり、1 倍を切る状況が続いている。危機感を持って戦略的に取り組むべきではないだろうか。私学修学支援金制度が始まって大きく中学生が私学に流れている現状をふまえ、裾野高校として志願者をどのようにして確保していくのかを議論していきたい。昨年度はこの場において裾野高校が唯一の総合学科であることが大きな売りだということを、学校側はお話しされていたが、果たして本当にそうだろうかという疑問がある。

山本委員 この運営協議会という場において、志願倍率 1 倍を確保するというのを議論することが、本当に必要なかどうかは一度検証が必要だと思われる。イギリスでは保護者にクーポンを配布して、いきたい高校にクーポンを払い学費を払うシステムにして、統廃合を進めていった。少子化で子供の数が少なくなるのでどの高校が統廃合の対象になるかわからないが、ある程度の統廃合は行政的見地からみれば、当然のこととして議論する必要があるのではないか。

裾野高校は沼津のように高校がひしめている地域ではないのにも関わらず、生徒が集まっていない。魅力的なカリキュラムを展開するなどして魅力化向上はしなければならないと思う。知徳高校さんのように福祉介護の資格を取れるような思い切った手段が取れるのも私立高校だから実習先の確保などができる。

だから、裾野高校で保育コースを作っても高校卒業時に何の資格も生徒に授与することはできない。それよりも保育の仕事内容についてしっかりと高校生の中に職業理解をさせるような教育や、カリキュラムマネジメントをしなければいけないと思う。社会人基礎力を向上させる取り組みの一環として、何らかの資格を必ず取らせませよ、というような議論がでてこないダメではないだろうか。社会人として即戦力になりますよ、という高校生を育成するためにカリキュラムに裾野高校ならではのオリジナリティーを出す必要があると思われる。

その時に社会の側がどのような人材を求めているのかというニーズの把握が重要だと思われる。保護者や中学生の視線だけを気にしていても、志願倍率1倍以上は達成しないだろう。あと、中学校訪問をもっと本腰を入れてやらないとだめだと思う。常葉大学でも高校訪問は多くの労力と人員を割いて行っている。総合学科で学ぶことが普通科よりもメリットがあるのだということを中学校の先生方に理解してもらう必要があると思う。

あとは、裾野市がいつ小中一貫の方向へ舵を切るのか。そういった動向にも目を配る必要がある。小中一貫ができてくると、こちらの戦略も変わってくる。裾野市との地域連携も含め、この場に裾野市役所の人がいたほうが良いと思われる。

小田委員 一昨年に市役所の多方面にいろいろ働きかけはしているが、まだまだ連携は十分とは言えない。連携協定を結んでいるのだからもっと活かしていくべきだと思う。

山本委員 裾野市行政が裾野高校にいろいろコミットしていく方向性を持って行ったほうがより良いと思う。裾野高校にも経営的視点を持ってこのようなカリキュラムや学校独自の志願者増加のための取り組みを行います、運営協議会の皆さん、どうでしょうか、というような方向にもって行ってもらいたい。キャリア教育を踏まえて、どのような資質・能力を育むかという全校的な議論も必要だと思う。裾野高校の教育実践の内容が今後ますます問われていくと思う。その実践や裾野高校の先生方がこういった授業を展開していきたいという方向を示してもらったうえで、常葉大学としてこうした資源を提供できますよ、または、例えば小田さんなら、こういう人材を紹介できますよ、というような議論ができていくと思う。

小田委員 裾野市内からの裾野高校への進学率が3割を切っている。地域から支持されない高校は存続が難しい現状があると思う。

校長 やはり地元の中学生がある程度は本校に進学してくれないと、将来地元に残って就職するといっても難しい面がある。高校としても何とか地元の中学校に支持される高校にしていきたい。中学校の教員で総合学科出身の先生はほとんどいないと思われる。だから、中学校にももっと総合学科とは何か、というのを理解してもらって広報活動を強化していきたい。

山本委員 中学校訪問する高校の先生方にも総合学科や危機感を共有して行ってもらう必要がある。訪問する教員の熱意や理解がばらばらだと良くない。

どこかの系列が学力的に秀でていないと難しい面があるので、どこかの系列が大きくアピールできる系列に育てていく方が重要だと思う。

小田委員 裁量枠Ⅱの生徒の進路指導・実績が大いに注目される。学校側にはアピールポイントにもなるだろうから、進路指導を十分に行ってほしい。静岡大学や常

葉大学などに進学できたという実績があって中学校側にもアピールできると思うので、頑張ってもらいたい。

山本委員 地域連携事業をカリキュラムマネジメントに入れ込んでアピールするのは大いに推奨したい。地域連携に力点を置いている大学は全国的にも多いので、裾野高校の裁量枠の生徒にとっても進学先が確保できて、大きな意義を生んでくれる可能性を秘めていると考えられる。地域連携に必要なのは、人前でその取り組みを発表できるということが肝要で、行政と一緒に何かプロジェクトを実践しました、さらに、その取組を発表しました、というところまでいかないと中学生にもアピールできないし、進路実績にも繋がっていかない。

常葉大学では地域連携のセンターもあるので、大いに利用・活用してもらいたい。現状の裾野高校では、資格も免許もやや中途半端感があるので、何らかのセールスポイントを作っていく必要があると思われる。

小田委員 私は地域の代表としてこの場にいるので、発言させてもらおうと、今の高校生に全般に言えることだが、地域の一員として自らを自覚する機会はほとんどないと思われる。だからこそ、高校生が自分が居住している地域の自治会長なり、民生委員とつながる機会は提供しよう、その後押しを裾野高校の取組としてやりましょう、という提言をした。しかし、コロナ禍のため、ここ2年間実施できない現状がある。改めて、この場でそういう取組を高校側が取り組むことを確認したい。地域とつながりが出れば、通学途上で生徒に声をかけてくれる大人が現れ、身だしなみについて注意をしてくれるなど、生徒指導上も良い効果が期待できる。そのために高校側が地域とつながる最初の指導、取組などに真剣に取り組んでいただきたい。裾野高校の生徒で消防団の手伝いや地域の行事に取り組んでくれる生徒は、地域の年下の子供たちにも慕われている。地域の防災訓練などにおいても、企画を立てて率先して動いてくれる裾野高校の生徒もいる。

山本委員 社会に開かれたカリキュラムという視点でいうと、そうした取り組みは大事だと思うが、一方で、個人情報の取り扱いには十分に注意しなければならない。

特に女子高生に対するリスクなどは慎重に考えなければならないと思う。専門性を有する外部人材との交流は積極的に行うべきだと思う。

小田委員 地域の大人とつながるきっかけ作りの作業の際に、何を基準に選別するのかという課題があるかと思う。例えば民生委員であればそうしたリスクも排除できるのではないかと思う。

山本委員 裾野高校の先生たちが、学校の授業やキャリア教育の一環として生徒たちに何を伝えたいのか、どのような資質や能力を育みたいのか、ということが大事だと思う。あと、個人的にすごく気になるのが、裾野高校の芸術教育の現状はどのようになっているのか、ということです。というのは、家庭環境の厳しいところは、芸術教育にお金を回す余裕がないところが多い。だからこそ、公教育に芸術

教育を補う意味でも、力点を置いてやっていただきたいと考えている。静岡県東部地域は陶芸家が非常に多い。そうした地域人材をさらに活用することが求められる。

校長 本校は佐野美術館と連携をしており、無料で見ることができる。ただ、先生方も含め生徒にもあまり周知されていないようなので、そこは周知を強化していきたい。

山本委員 それは、非常にもったいない話なので、ぜひ、生徒にも芸術に触れる機会をもつよう指導された方が良い。函南にも大学で陶芸を教えていた私の知人がおられるので、そういう外部人材はこれまで以上に活用された方が良い。

高橋会長 簿記などの資格を持っている、持っていないでも企業側の対応も採用に関しては変わってくると思う。専門の資格を取得できる学校は独自色もあり、魅力化の一つになると思うので、ぜひ高校側にも検討をお願いしたい。

小田委員 採用する企業側からすると、重要な要素ですよ。専門の資格を有しているか、いないかについては。

高橋会長 社会福祉協議会の仕事もなかなか、人材が集まらない。高校の入試倍率を上げるためにもやはり、高校側から何らかの仕掛けをしていかないと当然ながら中学生は集まらないので、裾野高校には頑張ってもらいたい。魅力化推進のために我々にできることがあれば、何でも言ってもらいたい。芸術性と学力の相関関係についてはなるほど、と気づかされた。東部には豊富な人材がいるようなので有効に活用していただきたい。

小田委員 再確認ですが、裾野高校にとっての「地域」とは、生徒の居住地であること。地域連携という時には、生徒の住んでいる地域がその「地域」に該当するということの認識を共有していただきたい。誰とどのように生徒が地域とつながるかについてですが、御殿場西高校では、防災をテーマに自主防災会長とつながっていった。裾野高校では地域課題解決型の探究学習をしていく予定なので、ご承知おき願いたい。多くの高校生は、ほとんど地域の大人と話をする機会はない。地域の多様な大人と話をしていく経験を持って裾野高校の生徒が卒業していったらいい。そうした経験を持つことにより、裾野高校の生徒は離職率も低くなり、地域からの評価も高まっていくような戦略を思い描いている。地域の大人とどれだけ関わられるか、また、関わる場を学校としてどのように仕掛けていくのか、それらをこの場で議論していきたいと考えている。

トークフォークダンスについては、実施運用についてどのようなスタンスで行うのか、改めて、再考する時期にきているかもしれない。ただ、地域住民にとっても生徒にとっても好評なので今年度も実施していただきたい。

下田高校でも実施されており、下田市と市民と下田高校の三者にとって好評だったようだ。こうした良い循環を裾野高校でも継続していただきたい。

ぜひ、裾野高校の生徒には、ただ、裾野駅から降りて、市や地域と関わらずに卒業していくのではなく、地域の大人や多様な人々と交流を持って関わりを持って卒業して行ってほしい。

稲垣委員  少し質問があるのですが、コロナ禍でできなかった一部活一ボランティア活動は今後どうなる予定ですか。

福室教頭  部活のボランティア活動は行ってもらう予定でいます。

稲垣委員  保育園児や幼稚園児との行事や、仕事体験の行事も復活すれば、地域の人たちとの交流も生まれるので、ぜひ、行っていただきたい。

高橋会長  それでは、ここでなされた様々な議論を学校の方でも検討していただきたい。また、学校側の方で新たな試みや提案があれば協力できるところはサポートさせていただくので、遠慮なく言ってほしいです。一つでも良いので何か方針なり、提案なりをお願いして、情報交換しながら進めていきましょう。

最後に今年度の裾野高校の学校経営計画の承認をお願いします。

各委員  承認します。

諸連絡  6月1日五龍祭お知らせ。次回の運営協議会は7月に開催予定。